

TIME	内容
	オープニングタイトル
	<p>田村： お元気ですか！市民のみなさん。麒麟の田村裕です。</p> <p>藤井： 藤井未莉佳です。 9月後半になって朝晩はだんだん涼しくなってきましたが…</p> <p>田村： やっと少し涼しくなってきましたけども。</p> <p>藤井： でも、昼間はまだまだ暑いですね。</p> <p>田村： 暑いよ。もう嫌だよ。</p> <p>藤井： ノースリーブ着てても、まだまだ暑いくらいで。</p> <p>田村： そう！日中は全然暑いね。</p> <p>藤井： クーラーもつけっぱなしになることが多いので、こうなると気になるのが電気代。</p> <p>田村： 電気代、気になりますよね、本当に。</p> <p>藤井： そんな電気代が安くなるかもしれない取り組みを吹田市が行っているのは知ってましたか？</p> <p>田村： 全然、知らない。</p> <p>藤井： それがコチラです。</p>

ナレーション：

吹田市が行っている取り組み。

それは「市民向け 再生可能エネルギー比率の高い電力のグループ購入事業」なんです。これは、太陽光や風力など、自然由来の電気を利用したいという一般家庭などを募集し、多くの人が集まることによるスケールメリットを生かして、自然由来の電気をオトクに使おうという取り組みです。

この度、吹田のお隣、豊中市もこの取り組みに仲間入り。

長内（おさない）豊中市長が協定書にサインしました。

自治体による市民向けの電気切り替えキャンペーンは西日本初の取り組みだということです。

TIME	内容
	<p>藤井： これで、吹田市の電力もエコな電力にもう切り替えたということですよ。</p> <p>田村： そうですか。エコな電力をみんなで使って安くするということ？</p> <p>藤井： はい。エコな電力を自分で選択できるということですよね。 さらに人数が多くなったら安く使えるのでお得にもなるという。</p> <p>田村： それを豊中市が協力してくれたんですか？</p> <p>藤井： 切り替えには参加登録が必要で、今年の10月から新たに登録の受付が始まる予定です。詳しくはホームページをご覧ください。</p> <p>田村： これは注目ですね。はい、分かりました。</p> <p>藤井： では、続いて特集です。今回は吹田で少年野球を見続けて50年。 山田西の名物おばちゃんについてです。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u></p> <p>吹田市立西山田中学校。          この日、ある少年軟式野球チームがグラウンドで練習を行っていました。          チームの名は「山田西リトルウルフ」。          全国大会にも出場経験がある、北大阪の強豪チームです。          所属している子供たちは小学校1年生から6年生までのおよそ130人。          監督、コーチ陣は30人という大所帯です。          そんな中、一際、熱心に子供たちを指導しているコーチがいらっしゃいました。          棚原（たなはら）安子さん、80歳。          安さんは、子供たちだけでなく監督、父兄からも「おばちゃん」の愛称で呼ばれているチームの名物コーチです。</p> <p><u>安子さん</u></p> <p>野球というのは1000通りくらいルールがあるんじゃないかと言うほどルールがあるんですけど、これはキチッと定められた事であって、それを守ってやると言うのは、人の生きる道に共通しているんじゃないかなと思うんですね。ルールをちゃんと守ると言うこととか。そこから礼儀正しい人間性とかが出てくるのが野球だと思いますね。</p> <p><u>ナレーション</u></p> <p>子供たちに野球を教え続けて50年。今回はそんなおばちゃんに密着しました。</p> <p><u>&lt;タイトル：おばちゃんと少年野球の50年&gt;</u></p> <p><u>ナレーション</u></p> <p>吹田市の少年軟式野球チーム「山田西リトルウルフ」が結成されたのは今からおよそ50年前の1972年です。          大阪万博が終わり、ニュータウンの開発も一段落した頃でした。</p> <p><u>安子さん</u></p> <p>私とこの子が長男が小学校3年、1年、年長と3人男の子が続いて居てたもんですから、ちょうどその時に遊んでた子供達を集めて「野球やらない？」って聞いてみたんですよ。ほな、みんな「やりたい！」って。あの時は本当に野球しかなかったので、野球やりたいということで。それなら「おっちゃんとおばちゃんて教えるからやってみようか？」ということで、高野台の蛇のたくさん出るところだったんですけど、そこに行って練習を始めたんですね。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u> 実は、棚原さん夫妻はご主人の長一（ちょういち）さんが実業団野球の選手。そしておばちゃんこと安子さん自身も実業団ソフトボールの選手だったんです。息子の友達を集めてきた野球チーム。しかし、結成当初は部員が集まらず、おばちゃんは常に部員募集のビラを持ち歩いていました。</p> <p><u>安子さん</u> チラシを持って、しょっちゅう渡していましたね。 「やらない？やらない？」って言って。買い物行くにも、どこに行くにも（チラシを）持ってましたね。買い物カゴの中に入れてましたね。</p> <p><u>ナレーション</u> 現在は、部員数130人。 野球が盛んな大阪の中でも5本の指に入るほどの大きなチームとなりました。そんなチームも来年で50周年。 今はご主人の長一（ちょういち）さんは会長として一線から退き、息子の徹（とおる）さんが総監督としてチームを引っ張っています。</p> <p><u>安子さん</u> もうちょっとで（結婚）60年やな。頑張らなあかな！</p> <p><u>スタッフ</u> 夫婦喧嘩はされませんか？</p> <p><u>安子さん</u> 今まで夫婦喧嘩ってしたことないな。ほんまに1回もないね。</p> <p><u>長一（ちょういち）さん</u> 元気は人一倍やからね。何も怖がれへんし、疲れたということを知らないから助かりますよ。</p> <p><u>ナレーション</u> もちろんおばちゃんはまだまだ現役。 練習のある日は低学年の練習グラウンドから高学年のグラウンドまで自転車で何往復も！ 時にはバットを持ち、ノックを担当することもあります。</p>

TIME	内容
	<p><u>徹（とおる）さん</u> ほんまに近所のパワフルなおばちゃんが家に居てるって感じです。</p> <p><u>ナレーション</u> 50年続くと思いましたか？</p> <p><u>徹さん</u> いや、思ってないですね。僕の4つ下が一番末っ子なんですけど、そこが終わったら、やめはるんやろなって思ってたぐらいで。その後もずっと続いたんで「いくつまでやはらのやろう？」って感じでした。まさか80歳越えてまでやるとは思ってなかったです。</p> <p><u>ナレーション</u> おばちゃんには子供たちを教える上で明確なビジョンがあります。それは…。</p> <p><u>安子さん</u> やっぱり自分の事は自分でやる自立心というものを、まず持たせるということですね。でも、今のお子さんは全部親がしてしまってるんで、本当に80%の子が依頼心が強いですね。ほんで自発性がない。自分でやらないということは、創意、工夫、発想ができない子供に育てってってますね。全部が指示待ちになってしまうんですね。自分で動ける子になっていかないとダメなのに、怒り倒して、それが出来てもダメですからね。</p> <p><u>ナレーション</u> 自立心を養う。その一つがユニフォームの洗濯。 1年生であれ6年生であれ、自分のユニフォームは自分で洗濯する。 そして、練習中に飲むお茶は自分で用意する。 それが山田西リトルウルフの鉄則なんです そんな考えの元、集まっている部員の親御さんは？</p> <p><u>スタッフ</u> お子さんは何年ですか？</p> <p><u>保護者①</u> 6年生です。 そうですね、入る前は家でダラダラしてたんですけど、入ってからはおばちゃんの「自分ことは自分でする」という教えの元で、洗濯とか、お茶の用意とか自分でやるように親も教育されるので自分でやるように変わってきましたね。</p>

TIME	内容
	<p><u>保護者②</u></p> <p>さっきもおばちゃんに怒られてたんですけど、私はおばちゃんの教を、「自分でやらせなさい」というのを破ってしまって、親がやっちゃって子育て失敗だと言われてたんですけど…。もう卒業してしまったら何もいってはダメだよと言われてるんで、私は悪い例ですね。</p> <p><u>保護者③</u></p> <p>親に言われるよりも、おばちゃんに言われると、ちょっと客観的に見てくれる意見をおばちゃんが言ってくれるので、親のそれを聞いて素直に聞けるし子供も親に言われるより、おばちゃんに言われる方が素直に聞ける部分もなるかなと思っています。野球が上手くなるということだけじゃなくって、生活、習慣の基礎的な部分というか、自分のことは自分ですするという意識が強くなったかなとは思っています。</p> <p><u>ナレーション</u></p> <p>おばちゃんイズムはしっかりと浸透しているようです。</p> <p>8月のとある土曜日。この日は、3か月に一度の古紙回収の日。実は山田西リトルウルフは月1000円の会費だけで全てを賄っています。その秘密がこの古紙回収。チームの拠点地域で古紙を回収し、チームの運営費にあてているのです。もちろんこれも子供たちの仕事。</p> <p><u>安子さん</u></p> <p>活動費を稼ぐためですね。親のお金を出すんじゃなしに、子供たちが自ら働いてくれば、これだけの費用が稼げるということなんで、もうずっとウルフを作った時から始めてるんで。</p> <p><u>スタッフ</u></p> <p>これを通じてどういったことを教えているのですか？</p> <p><u>安子さん</u></p> <p>やっぱり「体を動かすこと」と「出てきた人には全員挨拶をしなさい」と言ってるんで、言葉がけも大事です。</p> <p><u>スタッフ</u></p> <p>お金を儲けるだけじゃないんですね？</p> <p><u>安子さん</u></p> <p>そうですね。それだけじゃないですね。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u> 子供は家の中だけで育つわけではない。 外でお世話になって成長する。そう語ってくれたおばちゃん。 その精神は次の世代にも引き継がれています。</p> <p><u>徹さん</u> 昔からそうなんですけど、みんなを育てていくと言う所に重点を置いて、 おばちゃんは、それを二人でやってきたんですよ夫婦二人でね。 僕にはそのキャパはないので、スタッフをたくさん集めて、野球を通じて たくさんの事を学んでいくチームを作りたいなと、ひたすらそう思っています。</p> <p><u>ナレーション</u> そして最後にこんなことを聞いてみました。</p> <p>どうして“おばちゃん”なんですか？</p> <p><u>安子さん</u> みんな聞きはるんですけどね、楽なんですよ、おばちゃんと言うのは。 うちはおばちゃんと言うよりはみんなね、徹も徹おっちゃんです。 監督と言いません。みんな。この人偉いからものが言えないとか、 この人に言ってもダメやろうと言う人がないんです。</p> <p><u>スタッフ</u> “おばちゃん”やから喋りやすい？</p> <p><u>安子さん</u> そうですね。喋りやすいみたいです。なんでも喋ってきますよ、みんな。</p> <p><u>ナレーション</u> まさに野球はおばちゃんの人生そのものなんです。</p> <p><u>安子さん</u> みんなが卒業する時、本当に楽しかった。 こういう大人に巡り会えて良かったと思ってくれるような チームのあり様をいつまでも続けたいですね。</p> <p><u>ナレーション</u> 来年はチーム結成50周年。 でも、おばちゃん、こうなったら100周年を目指して頑張ってください。</p>

TIME	内容
	<p>田村： すごいな～！僕、本当に地元のチームなんですよ。 だから、存在は知ってたし、まさに入ろうとしてたチームなんですよ。</p> <p>藤井： そうなんですか！？</p> <p>田村： 友達がみんな「ウルフ行く」って言うて、「俺も行きたい」言うて。 安いんですよ、ウルフ。ただ、最初に一式揃えなあかん金が我が家に無かった。</p> <p>藤井： ユニフォームとか？</p> <p>田村： そうそう。最初の一式が無理で「アカン」って言われたんですけど。</p> <p>藤井： 古紙の回収で、子どもたち自身で賄ってたというね。</p> <p>田村： だから、今まで日曜とかみんなで遊んでたのに、みんな古紙回収に行きだしたから遊ばれへんくなってた。</p> <p>藤井： ちょっと寂しかった思い出。</p> <p>田村： 80でノックする？</p> <p>藤井： 元気でしたよね。</p> <p>田村： 元気やな～。</p> <p>藤井： 古紙回収の時の動きも子ども達よりおばちゃんの方が機敏でビックリしました。</p>

	<p>田村： 素晴らしい。</p> <p>藤井： みなさんにとっての“おばちゃん”になってましたね。</p> <p>田村： しかも、夫婦喧嘩1回も無しやって。</p> <p>藤井： それ、すごいですね。見習いたいですね。</p> <p>田村： ゼロはすごいねって。</p> <p>藤井： ゼロはすごいですよね。</p> <p>田村： 見習いましょう。</p> <p>藤井： 以上、特集でした。</p>
	<p>&lt;ワンポイント手話&gt; 『車の免許は持っていますか？』</p>

TIME	内容
	<p>田村： 続いては、「吹田エール飯」！</p> <p>(フライングタイトル)</p> <p>藤井： このコーナーでは「吹田エール飯」に掲載しているお店を エリアごとに紹介していきます。</p> <p>田村： ついに来ましたね。どんなお店があるのか、どんな御馳走が出てくるのか、 楽しみです。</p> <p>藤井： 今回は初回ということで「千里ニュータウン、万博、阪大エリア」から ご紹介していきます。どんなご飯なんですか。それではどうぞ。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション 藤井</u> まず訪れたのは、以前も番組でお世話になった千里南公園内にある「birdtree」さん。 店長さん、お久しぶりです</p> <p>店長さん： こんにちは、ご無沙汰してます。 秋の良い季節になりました。公園カフェは元気にやっています。</p> <p><u>ナレーション 藤井</u> 中は、ウッディーな寛ぎの空間が広がりテラスは、開放感抜群。 お料理は、厳選したお肉や魚介と産直野菜をメインにしたカジュアルイタリアンに、 ドリンクやデザートも充実しています。</p> <p>記憶がよくなくなる田村さんですが、このお店はもちろん覚えてますよね？</p> <p><u>ナレーション 藤井</u> どんなテイクアウトメニューか、期待持てますね！</p> <p>お待たせしました。こちらがbirdtreeさん一押しのテイクアウトメニュー。 「炭焼鶏の窯焼きフリカッセ トリュフ薫るきのこクリームソース」です。</p> <p>店長さん： 実はこのお料理は去年大人気のランチメニューをテイクアウト用にご用意したものになるんです。炭火焼で香ばしく焼き上げた鶏肉をさらにトリュフのクリームソースでお野菜と一緒に窯焼きにして、香ばしさとトリュフの香りを両方楽しめるお料理になっています。</p> <p>これから秋のとても過ごしやすい季節になります。 ぜひこのテイクアウトを使って、公園で楽しいお食事をしていってください。</p> <p><u>ナレーション 藤井</u> 「birdtree」さんは、阪急南千里駅から徒歩5分 千里南公園内にあります。 テイクアウトは、午前11時から受け付けています。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション 藤井：</u> 続いて訪れたのは阪急北千里駅からすぐにある「千里一番 だごや」さん。 店内には日本酒に焼酎も並び、夜は居酒屋とお食事、お昼はランチのお店として人気があります。 田村さん、お店の名物料理「だご汁」って何なのか気になりませんか？</p> <p>「だご汁」とは、小麦粉を練って作る団子と野菜を入れた九州は大分・熊本などの郷土料理。 ちなみに「だご汁」から「だごや」さんの店名が付けられたそうです。</p> <p>店長さん： 常時、野菜が十種類と牛肉や豚肉が入って、旬の野菜で中身は少し変えますが身体に良い野菜を長いこと寝かせて出汁を作っています。</p> <p><u>ナレーション 藤井</u> いろんな野菜のお出汁が出て、おいしそうですね。 そんな「千里一番 だごや」さん一押しのテイクアウトが、 名物のだご汁パックが付いた「特上 幕の内弁当とだご汁のセット」。 天ぷらに各種お惣菜もたくさん入って、ご飯には大きな鰻も載ってます。</p> <p>店長さん： 季節感のある素材をだご汁と一緒に提供させてもらってます。 充分ボリュームもあって種類も多いのでお得感があると思います。 注文してから作るから本当に美味しいお弁当がお持ち帰り出来ると思います。</p> <p><u>ナレーション 藤井</u> 「千里一番 だごや」さんは、阪急北千里駅から徒歩2分。 テイクアウトは、午前11時から受け付けています。</p> <p>最後に訪れたのは、北大阪急行電鉄桃山台駅地下にある 「レストラン桃山」さん。 こちらのお店は、およそ50年前にお父様が創業。 今は息子さんが店長として、娘さんが広報担当として お店を切り盛りしています。</p> <p>広報PR： 地域の方、常連さんが多くて「いつものやつ！」という感じで 言ってくれるのが嬉しいです。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション 藤井</u></p> <p>これまでのモーニングとランチに加え、今年の7月から新鮮な魚介を使った海鮮居酒屋をスタート。これ、お客さんからのリクエストなんだそうですよ。というわけで、今回レストラン桃山さんの一押しテイクアウトメニューは、新鮮な魚介を贅沢に使った、天ぷら御膳。</p> <p>ぷりぷりの海老の天ぷらにサーモンの塩焼き。お腹空いてきましたね。田村さん。</p> <p>こちらは海鮮担当の岸田さん。海外でお寿司を握っていた本格的な寿司職人だとか。</p> <p><b>海鮮料理長：</b></p> <p>うちは寿司をやっていますので、ノルウェー産のサーモンを取って、そのまま寿司の食材としても使えるというものをお弁当に入れさせていただいてる。一品一品のこだわりをまとめたものをこのお弁当に入れていきますので、充分楽しんでいただくと自信を持っております。</p> <p><u>ナレーション 藤井</u></p> <p>「レストラン桃山」さんは、北大阪急行電鉄桃山台駅地下。テイクアウトは、ランチと海鮮・和食をご覧の時間で受け付けています。</p>

TIME	内容
	<p>田村： すごいな～。</p> <p>藤井： お腹が空いてきましたよね。</p> <p>田村： お腹空くよ～。 しかも、わざわざテロップで「お腹が空いてきませんか？」って出てましたけど。</p> <p>藤井： なんか無いみたいです、スタジオには。</p> <p>田村： え？ はあ？ なんで聞くねん、ほんなら！</p> <p>藤井： あんなテロップ出してね。</p> <p>田村： おかしやん！</p> <p>藤井： ディレクターさんに後でちょっと…。</p> <p>田村： 性格悪いだけやん！なんなん、それ！</p> <p>藤井： 嫌がらせですよ。</p> <p>田村： 出てくる時のフリやん。 やっぱり「吹田エール飯」としていろんなところが協力してやってる じゃないですか。だから1カ所が頑張ると、うちも！うちも！ということで 平均値が上がってて、どこもかしも豪華やし野菜盛り沢山やし、 健康にも良いから。</p>

藤井：

今回は千里ニュータウン、万博、阪大エリアということで  
3店舗ご紹介しましたが…

田村：

あ！今、何か下で受け取りましたね！

藤井：

次回は「山田・千里丘エリア」からご紹介したいと思います

田村：

弁当ちょうんかい！あれだけ言うたから、何だかんだ弁当出てくるんかと思ったら、なんか箱出てきた！

藤井：

この中にいろんなエリアの紙が入っているんですけど…。

田村：

弁当入ってるんちょうんですか？

藤井：

お弁当は入ってないんですよ。

田村：

なんやねん。ほんまに無いんかい。

藤井：

ADさんが差し込んでくれたから「弁当かな？」って私も思いました。  
サプライズ弁当があるのかと思いましたが違いました。

田村：

ほんまや、なにそれ。え？僕が決めるんですか？

藤井：

そうなんです。どのお店に行くかは、田村さんが抽選箱で引いてもらって  
今後決めてもらいたいと思います。

田村：

分かりました。選ばせていただきます。

藤井：

次はどんなお店が紹介されて、ご飯はスタジオに登場するんでしょうか？  
それもお楽しみに。

田村：

案外、言われな知らんところ多いからね。スタジオには来～へんやろな、たぶん。

藤井：

以上、「吹田エール飯」のコーナーでした。

TIME	内容
	<p data-bbox="268 208 596 241">&lt;藤井 ナレーション&gt;</p> <p data-bbox="268 253 419 286">トリキリ①</p> <p data-bbox="268 304 1007 432">新型コロナウイルス感染症緊急対策アクションプランに 8月24日、ご覧の3件の追加を決定し、 8月28日開催の市議会臨時会で可決されました。</p> <p data-bbox="268 495 419 528">トリキリ②</p> <p data-bbox="268 546 1209 580">また、9月3日にご覧の3件を追加し、9月定例会に提案しています。</p> <p data-bbox="268 732 419 766">トリキリ③</p> <p data-bbox="268 784 1195 817">新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民の皆さまへお願いです。</p> <p data-bbox="268 880 1018 913">大人数で唾液が飛び交う宴会、飲み会は控えてください。</p> <p data-bbox="268 976 1035 1151">ご高齢の方、高齢者と日常的に接するご家族、 高齢者施設・医療機関などの職員の皆様は、 感染リスクの高い環境を避け、少しでも症状のある場合は 早めに検査を受診してください。</p> <p data-bbox="268 1214 1214 1294">感染防止宣言ステッカーを導入していない酒類の提供を行う店舗などの 利用を自粛してください。</p>

TIME	内容
	<p>田村：                      続いては、市内で行われた出来事などをご紹介します「吹田のトピックス」です。</p> <p>藤井：                      今回は2つの話題をお届けします。</p>
	<p><u>ナレーション</u>                      7月18日から8月23日の期間、市立博物館でミニ展示「新型コロナと生きる社会」が開催されました。</p> <p><u>ナレーション</u>                      会場には公共施設の資料をはじめ、新聞の折り込みチラシや飲食店のデリバリーサービスの資料、来店者などが書いた短冊、食料の無償提供の取り組みなど様々な資料を展示。来場者にコロナ禍の吹田市民の生活や思いを伝えていました。</p> <p>(来場者コメント)                      なんか日常的なチラシとかがすごいいろいろ置いてあって、それが自分と他者との関係とか、こういうチラシからでもいろいろ読み取れるってことにすごく気付かされて、すごい今日はいい体験をさせて頂きました。</p> <p>(コメント)                      約100年前に、スペイン風邪とも呼ばれていますけども、その吹田の地域資料っていうのが今のところまだ確認されてないんですね。今、目の前で起こっていること、この状況っていうのを、100年後の人たちにしっかり歴史資料としてコロナ関係のものを残していきたいと思いますので、是非ご寄贈ください。よろしくお願いします。</p>

TIME	内容
	<p><u>ナレーション</u></p> <p>9月5日、改修工事が完了したメイシアターで、リニューアルオープンを記念したコンサートがおこなわれました。</p> <p>メイシアターは2018年の大阪北部地震の影響で、地震発生以降大ホールの使用を中止。その後「耐震性の向上」「バリアフリー化」などの改修工事を行い、9月1日にリニューアルオープンしました。5日には「古谷充（ふるや たかし）&amp;ネイバーフッド・ビッグバンド」がリニューアルオープン記念コンサートを実施。ゲストにアコースティックギタリストの押尾コータローさんを招いて、ジャズナンバーなど十曲あまりを演奏しました。</p> <p>(来場者インタビュー)</p> <p>私この会員になっているんですけども、よく来るんですけども、音が違いますね。すごくきれいになってます。</p> <p>座り心地も良かったし、前も一度メイシアターの方でライブ見たことがあるんですけども、その時よりも会場全体に響いて良かったです。</p>

TIME	内容
	<p>田村： なるほど。素晴らしい。</p> <p>藤井： メイシアターは今後番組でも詳しく紹介していきたいと思います。</p> <p>田村： 吹田市民からすると象徴的な建物なので行きたいし、情報知りたい。 新しくどういうふうになったのかというのは気になりますね。</p> <p>藤井： そうですね。綺麗に生まれ変わったということ。</p> <p>田村： コロナのあれもすごいですね。早くもああいう取り組みをして。</p> <p>藤井： そうですね。現在進行形ではありますが、歴史的な出来事ですからね。</p> <p>田村： 確かにそうですね。</p> <p>藤井： 以上、トピックスのコーナーでした。</p> <p>田村： というわけでエンディングなのですが、なにやら藤井さんから重大発表がある ということで。いったい何なんでしょうか？</p> <p>藤井： 2年間番組 MC を務めさせていただきましたが…、</p> <p>田村： え、早っ。</p> <p>藤井： ごめんなさい。 ずっとオープニングから緊張してたんですが、卒業することになりました。 ちょっと感極まるタイミング、明らかにおかしかったですよね。</p>

田村：

そうですね。そんで一番大事なところへうへうしながら言いましたよね。

藤井：

すいません。

番組2年間務めさせていただきましたが、卒業することになりました。

田村：

え！やめちゃうの？ほんで急に泣き出して、最終的にへうへうしてもうたん？

藤井：

緊張してて…、そうなんです。

田村：

藤井さんらしいな。

藤井：

今まで放送局とかで仕事をしてきてたので、あんまり自分の素を出す環境が無くて、田村さんのおかげで、今も取っ散らかった挨拶になってしまいましたが素の部分がかかり出てる番組になっていて。

田村：

そうですね。ほんまに藤井さんと一緒にできて楽しかったのもありますし、ロケでもっとフリーで絡んでみたかったなというのは思いますね。もっと変なことしてくるんやろうなっていう。捌ききれぬ自信は無いですけど。倍返しされました。

藤井：

次にここに座る方も楽しみですよ。

田村：

そうですね。どんな方が来られるのか。

藤井：

田村さん、まだ知らないんですよ。

田村：

知らないです。

藤井：

私もまだ知らないの。

田村：

知らんのかい！今の言い方「私は知ってます」って感じやった。

藤井：

知らないんですけど、ガン見しようと思います。

田村：

ガン見。

本当に今度も活躍、もちろん応援してますし、ゲストでぜひ来てください。

藤井：

本当に今までありがとうございました。

田村：

2年間お疲れ様でした。ありがとうございました。

藤井：

それでは、さようなら。

田村：

なんか急な締めやな。